

二 部 地 区 活 性 化 だ よ り

野上川の風

発 行
二部地区活性化推進機構

編 集
総 務 部 会

事 務 局

〒689-4233
西伯郡伯耆町二部1562-1
二 部 公 民 館 内
TEL・FAX 0859-62-7159



<ふるさとの年中行事>

二部公民館まつり「たたらまつり」

二部公民館館長 権代勝治

二部公民館主催の「たたらまつり」を二月二十一日から二十三日まで開催したところ、多数の方に来館していただきました。この場をかりて厚くお礼申し上げます。

昨年四月に公民館に来てから早いもので二年経とうとしています。何も分からない中で公民館事業に取り組んで来ましたが、そんな中で、今回が初めての公民館まつりでしたので、最初はどのように進めてよいか分からない状況で地域の皆さんのご協力により無事終えることができました。

今年の特別展は、「ふるさとの年中行事」というテーマで、公民館二階に一月の松かざり、しめ飾り、とんどさん等に始まり三月のひな祭り、五月の端午の節句、六月の輪くぐり、七月の七夕さん、そして、十二月のさいの神と十七行事の展示がなされていました。また、入口には立派な門松飾りが作成してありました。昔に比べ、展示する品々を作成されるまでの準備に「苦労」がありました。なにせ、この時期に、作成していく品物がなかなか手に入らないという事でしたので。

一階では各集落からの展示作品をはじめ、同好会や交流を行っている河崎公民館、溝口中学校の生徒の作品の展示があり、昨年に比べ幅広い展示がなされていました。また、農産物、加工品の販売や恒例のぜんざい、きのこ汁のサービスもあり好評を得ていました。

このたたらまつりが二部地区の活性化に繋がって行けるように今後とも、皆様の二層のご支援、ご協力をお願いします。

「森の名手・名人」認定

東畑池集落の白根暢之さんが、平成二十六年年度「森の名手・名人」に認定され（鳥取県から二名）、十月十七日（金）、公益社団法人鳥取県緑化推進委員会の野田修理理事長（鳥取県議会議長）より認定書が伝達されました。

●「森の名手・名人」とは？

「もりのくに」に「ぼん運動」のリーディングプロジェクトとして、森や山に関わる生業や日本風土・地域生活に染みこんだ活動に長年携わってこられた方々で、「森づくり」「森の恵み」「加工」「森の伝承文化」の四部門から優れた技をもつてその業を究め、他の技能者達の模範となっておられる達人を「森の名手・名人」として、平成十四年から公益社団法人国土緑化推進機構が認定を行う制度です。

●鳥取県では何人が認定されているの？

平成二十六年年度で、通算二十七組二十八名が認定されています。

●白根暢之さんの認定事由は？

【森づくり部門】苗木生産

五十六年にわたり家業の山林用の苗木の生産に従事し、平成七年からは「広葉樹コンテナ苗木」の生産を始め、試行錯誤の末、生産技術を確立。また、大山の崩壊防止のため、大山に自生する草木類の苗木を高い技術力をもって生産し、治山事業に供給し、近年では東日本大震災で被災した東北三県の海岸林の復興のため、被災地の種子を育て苗木にして被災地に返す取組みにも参加されておられます。

●伯耆町では他に誰が認定されているの？

影山千世子（船越 平成二十年年度）

【森の恵み部門】シイタケ栽培

「森の名手・名人」 認定のコメント

白根暢之（東畑池）



<おめでとうございます>

私はそんな器ではありませんが、先々代から続いている苗木造りを受け継いで五十六年になります。戦後の拡大造林が終わり、針葉樹中心だったのが広葉樹へと幅が拡大し、多くの樹種を取扱うようになりました。フルイ苗からポット苗へ、そしてコンテナ苗へと造林のスタイルも変わりました。林業試験場の指導で花粉の少ないスギヒノキ、松くい虫に強い抵抗性マツ、大山の砂防緑化等、時代に応じて苗木が要望され、育苗技術もそれぞれに違い苦労しながら、取組んでおります。

育てた苗木が大切な皆様の造林地で五十年百年と根付いて、美しい日本の国土の保全に役立てばと願っております。

「おがっちのわくわく人生！」を 聴いて

杉本美恵子（三部二区）

昨年の十二月十五日の女性懇談会に参加し、フリーアナウンサーの「おがっち」こと小片悦子さんの講演を二部公民館で聴きました。

小片悦子さんは、人気ラジオ番組のパーソナリティを担当されています。私は以前からそのラジオ番組を聴いていたので、今回の講演会を楽しみにしていました。

講演は、自分にとつての「わくわく」＝「自信の根拠」に廻り着くことが出来れば、人生が楽しく豊かなものになるという内容でした。その為には、人々との出会いや繋がりが非常に大切だと語っておられました。その繋がりを生む為の、自己紹介の極意やコミュニケーションの方法等も聴くことが出来ました。この講演の中で、何かに挑戦しようと思った時、やりたいことを邪魔する自分がいても、否定せずに自分だけは肯定してあげることが「わくわく」の芽を伸ばすという言葉に感銘を受けました。

今回の講演を通じて、出合いは「宝」であり、コミュニケーション能力は、最大の武器であることを改めて実感しました。本当にみんなが、「わくわく」の笑いあり、笑顔あふれる充実した講演でした。



<わくわくしましょう>

地域づくり全国研修交流会 三重大会に参加して

永井 欣也（西畑池）

第三十二回地域づくり団体全国研修交流会が、昨年十一月八・九日の二日間、わたつて三重県で開催され、伯耆町から五名が参加しました。初日は津市での全体会終了後、第九分科会の多気町に移動し、農家レストラン「まめや」を中心に法人化し、地元産大豆フクユタカを使って、農村文化の継承、地域資源の域内循環に情熱をもつて取り組む北川静子代表のお話を伺った。

二日目はテレビドラマにもなった高校生レストラン「まごの店」を朝礼から視察。食材購入、調理、経理すべてを相可高校の生徒が行っている。きびきびとした姿に感激した。開店前なのに入口にはお客さんで長蛇の列。「おばあちゃんの店」「せんぱいの店」との連携も素晴らしいものだった。

また、「まめや」のある丹生の里を案内いただき「勢和語り部の会」、熊野古道「女鬼峠保存会」のボランティアの皆さんの活動は出雲街道案内の参考に出来そうです。

☆多気町分科会のテーマ

宝物は地域の中にありました。

*「まめや」北川代表

「気づいて、掘り起こし、

つなげていく。」

*多気町

町の宝創造特命監 岸川さん

「無いものは探さない。」

「自分たちで考える。」

「ビジネスを意識する。」



＜ボランティアガイドの活動＞

つくしの会の歩み

つくしの会会長 影山 千世子

「つくしの会」を結成して、二年になろうとしています。補助事業を受けず、自分達の力で頑張ろうと、元金を出し合い船出。それは思っていたより大変でした。各自が野菜を持ち寄り、ニンニクを栽培し、二部地区の材料を使って具沢山の焼肉のタレが誕生しました。

その後、会員も増え、和気あいあいと活動し、加工品の種類も少しずつ増えて参りました。

作っても販路を考えなくてはなりません。二部地区でのイベント、ふるさと小包に夏と冬、入れて頂きました。ただそれだけでは井の中の蛙。二部地区活性化推進機構より、今年度から交流が始まった河崎公民館まつりに出店してみないかと声をかけていただき、それをきっかけにして、ホープタウン、きのこ祭等に出演。また、暮れには二部公民館前の旧神庭商店を借りて暮れ市を開催。お客さんがあるだろうかと心配しましたが、大盛況。会員一同感謝しています。その他、年末には丸合の横の大山望協議会でも販売しました。私達が手作りで美味しいと思っても、消費者にどう伝え、買ってもらおうかということです。対面販売の難しさを知りました。まだまだ私達は未熟。皆様に助けられながら前進です。

私達の商品はもとより、二部地区を知ってもらうためには、人と人とのつながりを大切に、地域の皆様が心を一つにして、盛り上げていくことが活性化への原点だと痛感いたしました。



＜二部地区をPR＞

祝！県道日野溝口線

「矢倉峠工区」開通

車 睦宏（福岡区）

平成二十六年十二月六日、地元住民の念願であった日野町黒坂と伯耆町福岡を結ぶ県道日野溝口線「矢倉峠工区」の開通式が平井知事等の出席もと開催されました（トンネルの全長四百二十六m、幅七m、高さ四、五m）。当日は前日からの積雪の為、急遽トンネル内に開催場所を変更しての開催となりました。工事は平成十六年日野町下黒坂地内からアクセス道路の新設、トンネル開削と十年の歳月をかけてやっと完成しました。

当日の降雪の多さを見るにつけ、以前のままなら幅員も狭く車同士の交差はできにくいうえに凍結によるスリップ事故が多くあった峠が、トンネルの開通によって解消し安全安心な運転ができると感じたところです。今後は交通アクセスも非常によくなり、日野町、日南町はもとより山陽方面との交流の機会が増え、二部地区の活性化に少しでもつながればと思います。終わりにトンネルの開通により交通車両が増えます。安全運転を心掛け、事故がないように注意していただきます。



＜活性化に向けて＞

したいと思います。

「たたらまつり」を訪れて

河崎公民館館長 矢末 誠

昨年に引き続き今年も、「たたらまつり」にお招きいただきありがとうございました。

水墨画や自然木を利用した工芸品、チラシをひも状にしたものを利用して描かれた絵画など、河崎地区では見られない作品も多く展示されており大変興味を引くものでした。

漢詩や漢字の書には出典が添えられていて、「なるほどこれは全体でひとつの文字になるのか」とあらためて学ぶところがありました。私も河崎地区も十月に公民館まつりを開催しておりますが、これを参考に書には、出典を付けていきたいと思っています。

特別展示では、昨年の「たたら製鉄」に続いて今年は「ふるさとの年中行事」が展示されており、歴史と伝統に深く根付いた町であることが来場者に理解できる内容となっていると感じました。



＜たたらまつりで河崎地区を紹介＞

最後になりましたが、ふるまいの「ぜんざい」をおいしくいただきました。来年は、ぜひおいしい「おそば」を食べに行きたいと思っています。

義理から生まれた、お化けカボチャ

澤田恭輔（三部二区）

二十五年度、総務部に所属しながら、ハロウィーンイベントの運営に協力できなかったことを悔やんでいました。「そうだ、いつまでも悔やんではいけない。今年はカボチャを作り、ハロウィーンイベントに使ってもらい新たな気持ちになるんだ」と決めていました。

ある日、「明日でカボチャの苗の配布を終了する」という放送を聞き、仕事の合間に「二部公民館に駆けつけ、苗が残っていたので、その中から良さそうな苗を二本持つて帰り、普通カボチャの横に石灰と化成肥料をたっぷり入れ植付けました。その後の管理は追肥する程度でしたが順調に生育し、五個の立派なカボチャになり、そのうちの一個が美形コンテストの賞を受けるとは夢にも思いませんでした。

私ひとりで作ったと思いがついたら家内が私に内緒で形を良くするために手入れをしてくれていたようです。家内との合作でした。また、参加する喜びも得ることが出来ました。

＜美形カボチャ＞



＜完成で一す＞

お化けカボチャを作って

二部小四年 梶間廉翔（東畑池）

お化けカボチャ作りで一番むずかしかったのは、目や歯を包丁でくりぬくところです。巨大カボチャはともかくなかなか包丁がささりませんでした。でも、上手にお化けカボチャが作れて楽しかったし、夜、ランタンで明るく点灯したたくさんの巨大カボチャはとってもきれいでした。

ぼく達を作ったお化けカボチャをいろいろな人が車を止めて見てくれたいたのでとてもうれしかったです。

来年は、もつともつとたくさんのお化けカボチャを作って二部のいろいろな場所にかざりたいです。



＜悪戦苦闘ちゅ～＞

あとがき

「たたらまつり」も無事終わり、お疲れ様でした。今年度二回目の「野上川の風」は、下期の活動とトピックスを掲載しました。各部会鋭意取り組みで頂きましたが、次年度は、何か二部活性化として自立（事業化）出来る提案をして行きたいと思っています。